

## 2002年度第1回阪神地区研究会

日時：2002年9月26日（木）

会場：大阪ガーデンパレス

テーマ：利用者教育

### 講演

「何のための利用者教育：情報館の意識改革」

京都精華大学情報館 次長

藤岡 昭治 氏

### 事例報告

「ライブラリーツアーの実践」

大阪国際大学総合メディアセンター枚方図書館

山本 絹子 氏

平井 未央 氏

### 演奏とお話

「古楽器：リュート」

高本 一郎 氏

出席： 阪神地区39校（53名） 京都地区11校（14名）

以上

## 2002年度第2回阪神地区研究会

日時：2003年2月25日（火） 13:30～16:30

会場：大阪商業大学 ホール棟「蒼天」

### 講演

「イスラーム世界の書物の歴史」

四天王寺国際仏教大学 人文社会学部言語文化学科

アラビア語アラビア文化専攻 助教授

菊池 忠純 氏

### 事例報告

「新図書館開館への歩み」

大阪商業大学図書館 主任

武藤 純一 氏

### 施設見学

大阪商業大学 U-メディアセンター「GATEWAY」

以上

2003年度第1回阪神地区研究会

日時：2003年10月6日（月） 13:00～16:00

会場：国立国会図書館 関西館 第一研修室

講演

「国立国会図書館関西館の電子図書館サービスについて」

国立国会図書館電子図書館課 課長

田谷 裕之 氏

出席：阪神地区29校（50名） 京都地区10校（14名）

以上

## 2003年度第2回阪神地区研究会

日時：2004年2月19日（木） 13:00～16:30

会場：舞子ビラ 2F 六甲の間

テーマ：電子ジャーナルとコンソーシアム

### 講演

「電子ジャーナルとコンソーシアム」

日本医科大学図書館 事務室長

殿崎 正明 氏

### 事例報告

「私立大学図書館コンソーシアムに関わって」

関西大学図書館 運営課長

影山 幸子 氏

以上

## 2004年度第1回阪神地区研究会

日時：2004年9月10日（金） 13時～16時30分

会場：兵庫大学2号館1階 103教室

テーマ：教育ポータルとしての図書館

話題提供

神戸市外国語大学

青木 堅司 氏

グループトーク

全体まとめ

以上

## 2004年度第2回阪神地区研究会

日時：2005年2月16日（水） 10:30～16:00

会場：神戸女子大学図書館

テーマ：特色あるコレクションの形成と管理

### 講演

「魅力あるコレクションを創る ―神戸大学「震災文庫」立ち上げの経験から―」

国立民族学博物館

稲葉 洋子 氏

### グループトーク

### 全体まとめ

以上

## 2005年度第1回阪神地区研究会

日時：2005年9月13日（火） 10:30～16:00

会場：神戸女子大学図書館

テーマ：情報化時代の新しい図書館像

### 講演

「レファレンスツールとしてのインターネット活用」

昭和女子大学 教授

大串 夏身 氏

### 演習

「検索の技術とデータベースの検索の実際」

昭和女子大学 教授

大串 夏身 氏

以上

## 2005年度第2回阪神地区研究会

日時：2006年2月17日（金） 13:00～16:30

会場：神戸海星女子学院大学 本館3階 304教室

テーマ：環境の変化に対応した大学図書館運営とは

### 講演

「女と男 ―異文化コミュニケーション―」

神戸海星女子学院大学 教授

惣谷 美智子 氏

「大学図書館の地域貢献 ―新しい役割がついてくる―」

帝塚山大学 教授

柴田 正美 氏

以上

## 2006年度第1回阪神地区研究会

日時：2006年9月27日（水） 13:00～16:30

会場：神戸海星女子学院大学 本館3階 304教室

テーマ：大学図書館における地域公開の現状と課題

### 事例報告

流通科学大学附属図書館

長尾 晴美 氏

関西学院大学図書館

中鶴 三奈 氏

神戸親和女子大学附属図書館

大西 美知子 氏

追手門学院大学附属図書館

高畑 悦子 氏

### まとめ

「地域貢献の現状と課題」

帝塚山大学 教授

柴田 正美 氏

出席：63校 3機関 80名

以上

## 2006年度第2回阪神地区研究会

日時：2007年2月15日（木） 13:30～16:45

会場：宝塚造形芸術大学・大学院 大阪梅田キャンパス 502 教室

テーマ：環境の変化に対応した図書館運営

### 講演

「大学図書館の情報提供活動：これからの時代に向けて」

帝塚山学院大学 人間文化学部 助教授

渡邊 隆弘 氏

今日のネットワーク社会では、情報提供・発信に関して、提供者と消費者の垣根が、あるいは提供者間での「棲み分け」が溶解しつつある。図書館は長らく、設定された利用者層に対する様々な情報提供活動を、いわば独占的に行ってきたが、より広い視野で自らの活動を問い直していくことが求められている。新旧様々なサービスの可能性や意義、そして今後の情報提供活動のあり方について考えたい。

「大学図書館サービスの新たな展開ー学生の学習成果を確保するためにー」

筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授

永田 治樹 氏

大学図書館の活動は、大学がめざす目標の実現に寄与するものでなくてはならない。昨今こうした目標がきわめて明確に設定され、大学及び大学図書館は目標に向けたスタンスをとるようになってきた。これらの展開から、注目すべき動きが現れている。欧米や日本の、最近の動きにはどのようなものかを紹介しつつ、今後の大学図書館経営のあり方について考える。

出席：63校 84名

以上

## 2007年度第1回阪神地区研究会

日時：2007年8月6日（月） 13:30～16:45

会場：宝塚造形芸術大学・大学院 大阪梅田キャンパス 502 教室

### 講演

#### 「デジタル化時代の図書館相互協力」

東北学院大学 文学部 教授

佐藤 義則 氏

大学図書館を通じた情報流通において、図書館間相互協力は大きな貢献を果たしてきた。しかし、1990年代後半以降の電子ジャーナルの普及や近年における機関リポジトリの展開、そして最近では図書館のデジタル化に向けた動きの加速化などによって、その内容は大きく変化しつつある。最初出版物のデジタル化の現状と方向性を整理したうえで、次にNACSIS-ILL処理統計に見られるデジタル化の影響を確認し、今後における大学図書館相互協力のあり方について検討したい。

#### 「図書館文化と図書文化」

元関西大学文学部教授・日本図書館協会顧問

岩猿 敏生 氏

図書館文化は図書文化の成立を前提とする。図書館文化を研究対象とするのが図書館学であり、図書文化を対象とするのが図書学であるが、図書の脱物質化、電子化が進むとともに、図書館学も図書館情報学に移行。図書館も「壁のない図書館」としての電子図書館が出現。しかし、「壁のない図書館」は西欧では書誌の発展により、16世紀以来すでに実現している。図書館の電子化時代を抑え、図書を中心とする従来の図書館と今後の電子図書館との関係をどのように考えたらいいか、検討してみたい。

以上

